

成人看護学実習に向けての事前学習および学内演習の効果

中山 亜弓^{1)*}・逸見 英枝¹⁾・小野 晴子¹⁾・金山 弘代¹⁾・掛屋 純子¹⁾・柘野 浩子²⁾

成人看護学 1) 新見公立短期大学看護学科 2) 新見公立短期大学看護学科非常勤講師

(2010年11月17日受理)

成人看護学実習では、急性期・慢性期・回復期・終末期の対象に合わせた日常生活援助や、治療を受ける患者の援助など、幅広い知識・技術の提供が必要である。現在、4月の成人看護学実習ガイダンス時に加え、実習開始1週間前に演習オリエンテーションを実習施設ごとに実施し、事前学習および学内演習を自主的に行うよう指導している。そこで今回、成人看護学実習を終了した看護学生63名に質問紙調査を実施し、事前学習・演習が「実習において役立っているのか」、また「演習の内容」について検討した。事前学習・演習の項目13領域(49項目)では、全項目にわたり実施しているが、特に排泄援助技術(3項目)、清潔・衣生活援助技術(5項目)、症状・生体機能管理技術(5項目)において、どの項目も概ね60%近くの学生が事前学習・演習を実施していることがわかった。また、事前学習・演習を実習メンバーと協力して実施、または教員の指導を受けながら実施することで、実習への自信につながっていた。さらに、実際に受持患者へ技術を提供することで、事前学習・演習が実習に役立っていることができ、学生の自己評価も高くなったと考えられる。(キーワード)成人看護学実習、事前学習・学内演習、看護技術

はじめに

2003年、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」¹⁾により、臨地実習において学生が行う基本的な看護技術の水準が示され、患者の同意のもとに学生が可能な限り看護技術の実施を行うことができるように、学校と臨床が取り組む必要があると報告された。さらに、この報告を受けて、2008年、「助産師、看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」について²⁾、学生の看護実践力を強化することが示された。

成人看護学実習では、急性期・慢性期・回復期・終末期の対象に合わせた日常生活援助と、治療を受ける患者の援助など、幅広い知識・技術の提供が必要である。現在、4月の成人看護学実習ガイダンス時に加え、実習開始1週間前に演習オリエンテーションを実習施設ごとに実施し、事前学習および学内演習を自主的に行うよう指導している。実習後、「看護学実習経験録」「成人看護学実習 看護経験一覧表」の提出により、学生が経験した看護項目についての把握はできているが、事前学習および学内演習について学生がどの程度実施して、実習に役立っているのか把握できていない現状がある。

そこで今回、成人看護学実習を終了した看護学生に、事前学習および演習について調査し、事前学習・演習が実習において役立っているのか、また演習の内容について検討

したので報告する。

I. 研究目的

成人看護学実習前に行っている、事前学習および学内演習オリエンテーションの効果と、事前学習・演習が実習において役に立ったかどうか、また演習の内容についての検討を行う。そして、今後のオリエンテーションの参考とする。

II. 成人看護学実習(A・B)の事前学習および演習について

1. 全体オリエンテーション

成人看護学実習(A・B)が始まる4月に、「成人看護学実習ガイダンス」が行われる。成人看護学担当教員と看護学科3年生全員が参加する。

ガイダンスの内容は、成人看護学実習の目的・目標、実習方法および実習内容についてである。その中で「成人看護学 事前学習および学内演習」についてのオリエンテーションの内容は、「事前学習および演習の目的」、「演習の進め方」、「演習内容」、「注意事項」、「実習室・物品の使い方」などである。ここで、事前学習および学内演習を自主的に行うよう指導している。

*連絡先: 中山亜弓 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

表 事前学習・演習の流れおよび目的・目標

| | 時期 | 内容 | 参加者 |
|------------------|---------------|--|----------------------------|
| 成人看護学実習 ガイダンス | 4月 | 実習の目的・目標, 実習方法および実習内容, 成人看護学 事前学習および学内演習など | 成人看護学 担当教員 看護学科3年生全員 |
| ↓ | | | |
| 演習オリエンテーション | 実習開始 1 週間前 | 実習施設の特徴, 対象者の特徴, 主な疾患, 処置, 看護 | 実習施設担当教員 その実習施設で実習を行う学生 |
| ↓ | | | |
| 演習の実施 | ～実習終了 まで | グループごとにスケジュール作成, そのスケジュールに沿って実施 | 実習グループごとの学生 |
| ↓ | | | |
| 記録の提出 | 実習後 | 看護学実習経験録および成人看護学実習 看護経験一覧表にチェック | |

＜成人看護学実習 A・B＞

- I. 目的: 成人各期の健康上の諸問題をもつ対象の看護実践を通して, 看護過程を展開する能力と態度を養う。
- II. 目標:
 1. 成人各期の対象及び対象をとりまく人々との援助的人間関係を成立・発展させる能力と態度を養う。
 2. 成人期の対象の看護の必要性を認識し, 看護過程を展開する。
 3. 看護チームの機能及び保健医療組織との関連を理解し, 看護の役割と責任を認識する。
 4. 自己の能力を評価し, 今後の学習の方向性を得る。
 5. 学習の体験を洞察し, 看護者として自己の価値観, 死生観, 看護観を発展させる。

＜事前学習および演習の目的＞

- 事前学習・学内演習として, これまで学んだ知識・技術を復習し, 臨地実習に備える。
1. 「実習要綱」「成人看護学実習経験一覧表」をもとに知識・技術を再確認し, 実習で活用できるように準備しておく。
 2. 受持患者を示された場合, 教科書その他の文献を活用し, 疾患, 看護の原則など基礎的知識をまとめ, 準備しておく。
 3. 特殊な医療, 看護処置はVTRを参考にイメージ化を図り, 看護上の原則を再確認する。(周手術期に関することなど)
 4. 看護技術に関しては演習を行い, 注意事項・手順などを再確認する。

2. 演習オリエンテーション

成人看護学実習 (A・B) 開始1週間前に, 演習オリエンテーションを実習施設 (2009年度は4施設9病棟) ごとに実施している。実習施設担当教員とその実習施設で成人看護学実習を行う学生が参加する。

オリエンテーション内容は, 「実習施設の特徴」, 「対象者の特徴」, 「主な疾患, 処置, 看護」についてである。教員はそれらについて具体的に指導し, 学生が実習をイメージできるよう配慮している。また, 随時質問に応じ, 学生の学習支援を行っている。

3. 演習の実施

学生は演習オリエンテーションを受けた後, 実習のグループごとに事前学習・学内演習のスケジュールを作成し, 担当教員に報告する。教員は必要があれば, 随時内容の修正・追加を行っている。

学内演習については, 実習のグループごとに立てたスケジュールに沿って実施している。ただし, 身体侵襲のある技術 (特に, 注射, 点滴静脈注射など) については, 教員の指導のもとに行っている。また, 担当教員は学生からの

質問に答え, 参考資料の提示など, 知識面からの学習支援も行っている。

4. 実習後の提出物

成人看護学実習終了後, 学生は「看護学実習経験録」および「成人看護学実習 看護経験一覧表」に, 自身が経験 (実施・見学) した項目にチェックをし, 提出する。これらの提出により, 担当教員は学生が経験した看護項目について把握をしている。

III. 研究方法

1. 調査対象

2009年度A短期大学看護学科の成人看護学実習修了者3年次生63名

2. 調査期間

平成22年2月24日～2月26日

3. 調査方法

留め置き式の自記式質問紙を用いた調査。

4. 調査内容

成人看護学実習の事前学習および学内演習の実施状況と実習への役立ち、自己評価についてである。

5. 定義

事前学習の「事前」とは、実習開始前だけでなく、実習中のケア提供前も含めている。

6. 分析方法

統計ソフト SPSS16.0J for Windows による統計処理を行った。

7. 倫理的配慮

対象者に質問紙を配布時、記入した内容について、調査目的以外には使用しないこと、統計的処理により個人が特定されないこと、この調査の協力の有無が成績評価等に影響しないこと、調査への協力は自由意志とすることを説明した。また、回答があった場合は、調査への同意が得られたものとするを説明した。本研究を実施するにあたり、新見公立短期大学倫理審査委員会の承認を得ている。

IV. 結果

2009年度A短期大学看護学科の成人看護学実習修了者3年次生63名に配布、回答が得られたのは57名（回収率90.5%）であった。

1. 事前学習・学内演習の実施状況について（図1）

事前学習および学内演習の項目は、「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準」をもとに、13領域49項目とした。項目内容については、成人看護学実習を担当する教員で検討した。

事前学習・演習の項目13領域（49項目）では、全項目にわたり実施していた。特に「排泄援助技術」（3項目）、「清潔・衣生活援助技術」（5項目）、「症状・生体機能管理技術」（5項目）において、どの項目も概ね60%近くの学生が事前学習・演習を実施していたことがわかった。回答数が多かった項目は、「オムツ交換・失禁ケア」89.6%、「バイタルサインズの測定」89.3%、「陰部洗浄」86%、「移動の援助」「寝衣交換」がともに82.5%、「手洗い」82.4%であった。逆に回答数が少なかった項目は、「肺理学療法」24.6%、「ストーマケア」26.4%、「噴霧吸入」28.1%、「輸血」28.5%、「人工呼吸器装着中の患者のケア」29.8%であった。

事前学習および学内演習を実施した時期「実習前」、「実習中」、「実習後」に分けてみると、「実習前」と「実習中」に行った項目がほとんどで、「実習後」に行った項目は、「オムツ交換・失禁ケア」、「口腔・鼻腔内吸引」、「人工呼

吸器装着中の患者のケア」、「中心静脈栄養の管理」、「麻酔について」、「透析時の援助」、「検査時の援助」の7項目であった。「実習前」に実施した項目で多かったのは、「陰部洗浄」70.2%、「バイタルサインズの測定」67.9%、「寝衣交換」66.7%であった。「実習中」に実施した項目で多かったのは、「リハビリテーション」40.4%、「症状・病態の観察」39.3%、「口腔ケア」38.6%で、「実習前」よりも多く実施していた。

2. 事前学習・学内演習の学生評価（図2）

成人看護学実習の事前学習および学内演習について、学生に自己評価をしてもらった。質問内容は「必要に応じて事前学習・演習のオリエンテーションを受ける機会があった」、「オリエンテーションの内容は、事前学習・演習を円滑に行うために役立った」、「受持患者（実習施設・病棟）の看護を中心に、事前学習・演習を展開できた」、「実習グループメンバー間で十分話し合いながら進められた」、「実習グループメンバー間で協力しながら進められた」、「自主的に事前学習・演習に取り組めた」「事前学習・演習は、実習への自信となった」の7項目である。その回答には「非常に当てはまる」、「大体当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の4段階間隔尺度を用いた。なお、集計は、「非常に当てはまる」、「大体当てはまる」を「当てはまる」とし、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」を「当てはまらない」として分析した。

学生の自己評価は7項目とも高く、9割以上「当てはまる」と回答していた。「非常に当てはまる」が多かった項目は、「実習グループメンバー間で協力しながら進められた」68.4%、「実習グループメンバー間で十分話し合いながら進められた」64.9%であった。

3. 事前学習・演習の実施について

「事前学習・演習を誰と行ったか」(図3)については、「実習グループメンバーと実施」96.4%であった。また、「教員の指導」(図4)については、指導を「受けた」学生92.9%であった。実習中、実際に「受持患者への技術提供」(図5)を行ったかについては、「実施」94.6%、「見学」3.6%、「機会がなかった」1.8%であった。

4. 実習への役立ちについて（図6）

事前学習および学内演習が実習に役立ったか質問した。回答は、「非常に役に立った」と「役に立った」を合わせて89.3%、「どちらともいえない」8.9%、「あまり役に立たなかった」1.8%であった。

V. 考察

1. 事前学習・学内演習の実施状況について

事前学習・演習の項目13領域（49項目）では、全項目にわたり実施していた。特に「排泄援助技術」、「清潔・衣生



図1 項目別 事前学習・演習の実施状況

成人看護学実習に向けての事前学習および学内演習の効果

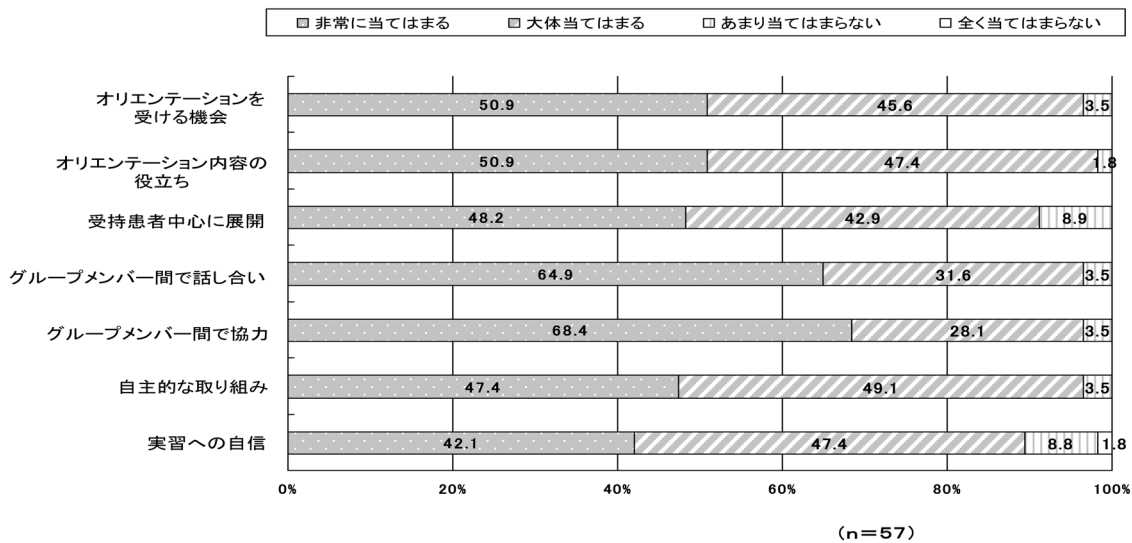


図2 事前学習・演習への学生の評価

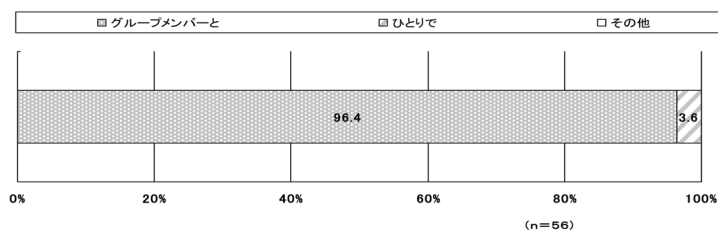


図3 事前学習・演習を誰と行ったか

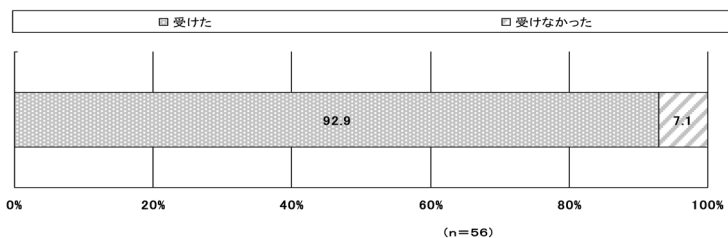


図4 教員の指導

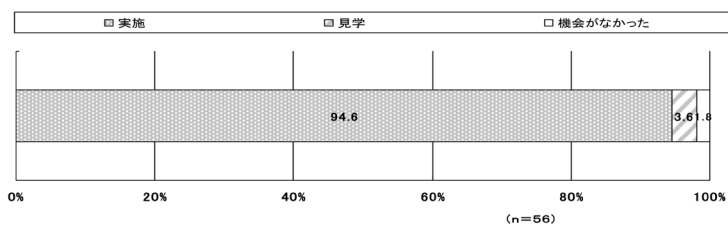


図5 受持患者への技術提供

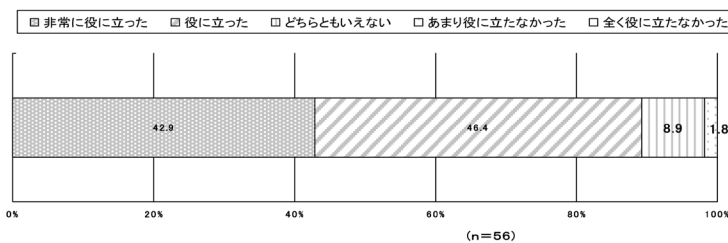


図6 実習への役立ち

活援助技術」,「症状・生体機能管理技術」において,どの項目も概ね60%近くの学生が実施していた。さらに,回答数が多かった「オムツ交換・失禁ケア」,「バイタルサインズの測定」,「陰部洗浄」,「移動の援助」,「寝衣交換」などは,8割を超える学生が実施していた。これらは,どの病期にある対象者にも実施する看護技術であり,学生の関心も高かったことが伺える。逆に,回答数が少なかった「肺理学療法」,「ストーマケア」,「噴霧吸入」,「輸血」,「人工呼吸器装着中の患者のケア」などは,学生の3割未満しか実施していなかった。これらは,学生が関わった対象者でしか経験できない看護技術である。そのため,実施にも偏りがあった項目となったと考えられる。

次に,「実習前」「実習中」「実習後」実施した項目について,考察していきたい。

1) 「実習前」実施>「実習中」実施の項目について

「実習前」に実施した項目で,回答が多かったのは,「陰部洗浄」,「バイタルサインズの測定」,「寝衣交換」などで,「実習中」に実施した項目よりも多く実施していた。これは,実習前の演習オリエンテーションにて,教員が受持患者や実習施設・病棟をイメージできるよう説明・指導した項目であること,学生が実習前に不安を感じる項目であったと考えられる。また,「実習中」の実施が減少していたのは,実習前に実施したことで,実習中は自信を持って技術提供できたことや,逆に残念ながら実習中に技術提供の必要がなかったことも考えられる。

2) 「実習前」実施<「実習中」実施の項目について

「実習中」に実施した項目で,回答が多かったのは,「リハビリテーション」,「症状・病態の観察」,「口腔ケア」などで,「実習前」に実施した項目よりも多く実施していた。これは,実際に受け持ちになった対象者の変化に伴って必要になった項目であったと考えられる。また,演習のオリエンテーションにて詳しく説明をしているが,対象者の追加情報もあったのではないかと推測される。これについては,実習施設・病棟の特徴を教員が把握し,学生への指導に活かしていきたい。

3) 「実習後」実施の項目について

「実習後」実施していた項目は7項目で,どの項目も割合が少なかった。少数ではあるが,実施していた学生は,実習中に実施できなかったという危機感を感じ実施していたのではないかと考えられる。また,他の領域実習の中に成人看護学実習が位置づけられており,学生は成人看護学実習を終えるとすぐ次の実習に取り組まなければならない

い。そのため,実習前・中でできなかったことを振り返る機会が持てないのではないかと考えられる。よって,実習後に振り返る機会を作ることは時間的に難しいため,実習中に実施できるよう指導していく必要がある。

2. 事前学習・学内演習の学生評価と役立ちについて

事前学習および学内演習における学生の自己評価は7項目とも高く,9割以上「当てはまる」と回答していた。事前学習・演習を実習メンバーと協力して実施すること,または教員の指導を受けながら実施することで,自主的な取り組みができ,さらに,実際に受持患者へ技術を提供することで,事前学習・演習が実習に役立ったと捉えることができていた。これらから,学生の自己評価も高くなり,実習への自信につながっていったと考えられる。

3. 今後の課題

事前学習および学内演習を実習メンバーや教員と実施することで,実習への自信につながり,さらに,実際に受持患者へ技術を提供することで,事前学習・演習が実習に役立っているという効果が得られた。しかし,実施した学生が少ない項目については,対象者の特徴により経験できていない項目であることもわかったので,学生がイメージできるような学習支援が必要である。体験の共有という点では,成人看護学実習中に行う合同カンファレンスはその役を担っている。それは,施設間の実習体験を共有することで実習体験の格差を是正し,知識・理解を深め,学びの共有を通してリフレクションができる機会となっている³⁾。合同カンファレンスで,イメージ化を図り,学生の学習へとつなげていけるような指導を行う必要がある。

文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書, 2003.
- 2) 厚生労働省医政時局看護課長通知：「助産師,看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」について, 2008.
- 3) 小野晴子・逸見英枝・金山弘代・掛屋純子・中山亜弓・柘野浩子：成人看護学実習における合同カンファレンスの評価－実習施設間の学びの共有を通して－. *インターナショナル Nursing Care Research*, 9(2), 141-148, 2010.

Effect of pre-learning and in-school exercise preparation for adult nursing practice

Ayumi NAKAYAMA, Fusae HENMI, Haruko ONO, Hiroyo KANAYAMA, Junko KAKEYA, Hiroko TSUGENO

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

In adult nursing practice, providing a wide range of knowledge and skills including daily-life aid according to the acute, chronic, convalescent, and terminal phases and helping patients to receive treatment are required. We currently organize exercise orientations at every practical-training facility, during the period of guidance regarding adult nursing practice in April as well as a week before the start of the exercise, and instruct students to voluntarily conduct a pre-learning and in-school exercise. Thus, here, a questionnaire survey was conducted involving 63 nursing students completing adult nursing practice to examine the “usefulness in the practical training” of the pre-learning and exercise and the “exercise content”. The results revealed the following: regarding 13 areas (49 items) in pre-learning and exercise, the students conducted all items, but particularly regarding the skills to provide excretion care (3 items), grooming and dressing (5 items), and managing symptoms and physical functions (5 items); nearly 60% of them conducted the pre-learning and exercise involving any of the items. In addition, conducting the pre-learning and exercise in cooperation with practical-training members or receiving instructions from teaching staff led them to become confident in the practical training. Moreover, actually employing the skills to assist patients made it possible to put the pre-learning and exercise to use in practical training, which may increase students’ self-evaluation.

Key words: adult nursing practice, pre-learning and in-school exercise, nursing skills